

「いや」の否定性と談話での機能

The negativeness and functions of “IYA”

小 出 慶 一*

KOIDE Keiichi

1 はじめに

1.1 本稿の対象

応答詞は肯定系（「はい」「ええ」など）と否定系（「いや」「いいえ」「いえ」など）という2つの系列に分けられるのが通例のようである（金水・田窪 1997、森山・張 2002 など）。その中で、「いや」は、「いいえ」「いえ」と使用頻度、使用分布などで違いのあることが指摘されている（山根 2003、小早川 2006 など）¹。しかし、そのような違いが何に由来しているのかについては、次節で述べるが十分ではないように思われる。

この稿では、「いいえ」「いえ」「いや」の中で、もっとも広く使われ、出現頻度も高いと言われる「いや」の性質について検討を加えることにしたい。「いや」は否定に関わるとされるのだが、「いや」の検討を通して、話し手の談話操作の仕組みの一端が垣間見られるはずである。

1.2 「いや」と「いえ」「いいえ」の違い

はじめに、「いや」と「いえ」「いいえ」の用例についての違いを観察し、本稿の議論で明らかにすべきこととして4つのポイントを挙げる。

1.2.1 ① Yes/No 疑問文に対する応答の仕方

まず、Yes/No 疑問文に対する応答での違いに

ついて見てみる。「いや」「いえ」「いいえ」は、応答詞としての機能も持つものであるからである。なお、点線の下線は先行する疑問部分を示す（以下同様）。

1 1：うーん。御自分でははじめの経験とか、そのいじめられるとか？

2：いえ、全くないです。（RTm）²

2 2：ええっと、この曜日というのは、（1：うん）ええとーこの4日間全部出なきゃあ、まずいーという、（1：ああ）ことでしょうか？

1：いやあ、出来たらなんですけど、都合が悪い日があるんでしょうか？（YI f）

この用例を見て気づくことは、1の「いえ」が質問への直接的な応答として機能しているのに対して、2の「いや」が質問への直接的な応答とはなっていないことである。

1では「全くないです」というように、質問の内容を否定する表現が後続している。それに対して、2では、「4日間全部でなきゃまずいか」に対して直接的には答えていない。この質問への直接的な答えとしては、「いや、その必要はありません」などという答えが想定されるが、実際には「いや、出来たらなんですけど」というように自身の要求への注釈的内容が続いている。

* こいで・けいいち

埼玉大学教養学部教授，日本語教育

山根 (2003) は、「いや」に、「違います」「そうではありません」のような否定付加表現が続くことは少ないと述べているが、2 の例もその一つになるかもしれない。しかし、なぜ否定応答表現が後続しないかという点に関しては、山根の言うように「いや」の否定が強く、それだけで十分だからという観察が十分なものかどうかはわからない。否定対象は直前の質問内容だけとは限らないであろうし、なぜ否定付加表現が続かないのかを考えるためには、「いや」の否定対象が何かという問題は避けて通れないだろう。

1.2.2 ② WH疑問への現れ

2 つ目の観察として、「いや」は WH 疑問文に対する応答として現れるということが挙げられる。一般に、「いいえ」や「いや」は、YES/NO 疑問文に対するものと考えられるが、「いや」の用例を見ると、単に肯定や否定で答えられないタイプの疑問文に対しても現れている。また、「いや」の用例の中で占める割合も小さくはない。

3 1 : (…)³ あの一、今年の夏はじゃあ、空きますよね、(2 : はい) 就職活動が終わって、(2 : あそうですね、ええ) どんな予定でいらっしゃいますか?

2 : いやーもうそれが、情けなくて、旅行でもしたかったんですけども、(1 : うん) まお金が、全く、ないんですね、今。それであの一、(…)

4 1 : あー—そうですね。(2 : ええ) そういうう学生さん達っているのは、(…)どういう目的で、あの一その日本の、学校にっていうふうに思ってらっしゃるんでしょうね。

2 : いやー私も実は— (1 : うん) な、あ

の何年もやってるんですが (1 : うん) 本音のところ

が分からないんですね。

(MA f)

3 では「どんな予定ですか」、4 では「どう思っているんでしょうか」という問いであり、否定すべき内容はない。

一方、WH 疑問文への応答として使われた「いえ」の用例は、(漏れがあるかもしれないが) HCSJ で見つけることはできなかった。「いえ」の用例として多く見られたのは次のようなもので、YES/NO 疑問文に答えるものだった。

5 1 : そうですね。はい。じゃ、これからアルバイトを始めるという、まだ授業ですか?

2 : いえ、もう終わります。えあつと、今ちょうど試験中です。

1 : そうですね。 (YI f)

6 1 : (…)⁴ あの一、えーと佐々木さん失礼ですけどもあの一お仕事してらっしゃいますか?

2 : いえ。家庭の主婦です。

1 : あ、そうですね。 (YS f)

「いえ」を WH 疑問に使った例を作例で示すと次のようになるが、やはり不自然の感は免れない。

7 A : どうして昨日は来なかったのですか。⁴
B : { いや/??いえ }、それを言われると面目ない。

8 A : 秋入学についてどう思いますか。
B : { いや/??いえ }、いいと思います。

YES/NO 疑問文は、5、6 の例が典型と思われるが、命題の成立の可否について問うもので

あり、「いえ」が 5、6 で使えるということは、「いえ」のかかわるレベルが命題レベルだということであろう。しかし、命題レベルを超えたものには対応ができない。

それに対して、「いや」は WH 疑問文への応答表現として可能であり、少なくとも命題レベルとは異なるレベルへの応答が可能であることがわかる。

1.2.3 ③ 非応答的な用法

さらに、3つ目の観察として、「いや」には一見すると応答とは言えないような用法も見られることが挙げられる。それは、次の例のように自身の発話の中に現れるものである。これも「いえ」にあまり見られない用法である。

92 : ええ、あの、フェドカップは、昨日、一昨日、観なかったんですけども、ウインブルドンは、かなり観てて、寝不足になりました。

1 : じゃあ、テレビとか・・・あの一、(2 : そうですね) リアルタイムで。

2 : ええ、そうですね、ええ。いや、なんか、ビデオに撮ってもいいんです(1 : うん)けれどもね、やっぱり結果がわかっちゃってから観るのと(1 : うんうん)違いますよね(1 : うんうん)。

(AM f)

この例の特徴は、「いや」がそこまでの文脈の何に対応したものが明確でないことである。直前の自発話は「ええ、そうですね、ええ」と一見肯定に見える表現になっているが、この表現は必ずしも肯定でない。つまり、この「ええ、そうですね。ええ」を否定しているわけでもない。ここでは、「いや」は何に対応するものなのか。そのことが問題になる。

1.2.4 ④ 自己完結性の弱さ

次に4つ目の観察。串田(2005)でも指摘されていることであるが、「いや」の自己完結性の弱さ、「いや」だけでは発話を終わりにくいという性質である。

次の例を見ると、「いいえ」であればそれだけで応答として完結したと見ることができると思われるが、「いや」の場合は、それに続く内容が来ないと完結した感じにならない。

10A : 隣室の音が聞こえますか。

B : { いいえ / いや }。

それは、「いや」に続く内容の予想のしにくさにもつながるものだと思われる。10[^]に後続内容の可能性をあげたが、「いいえ」の場合は、一種の否定付加表現的なもの(10[^]a)との適合度は高いが、10[^]b、cの場合は自然さが落ちる。しかし、「いや」はより広い内容を後続させることが可能である。

10[^]Ba : { いいえ / いや }、何も聞こえませんね。

b : {??いいえ / いや }、聞こえるけれど、気にはなりません。

c : {*いいえ / いや }、ぼくもさっきから気になっていたんです。

このことは、先述したように、「いや」が、先行する疑問文の内容にかかわらない対応が可能だということであるが、直前の内容に直接かわらない、また、対応する内容が必ずしも明確でなく、自己完結性が弱いということは、逆に見れば、方向を特定せずに、会話の方向を自らの意図する方向へ誘導する性能を持った表現であるということにもなる。つまり、「いや」は、応答という枠を超えて、会話の形成にかかわる

ことばと見たほうが適当であるとも思われるのである。では、会話に対してどのような機能を持つのか、それを考えることがこの稿の目的である。

1.3 資料

本稿では、主として、『インタビュー形式による日本語会話データベース』(北九州市立大学上村研究室) (以下、HCSJ) からのデータを使用する。このコーパスは、名前が示す通り会話のデータであり、それ以外の談話形式については今回は扱わない。

2 先行研究

次に、これらの特徴を持つ「いや」について、どのような議論があったか、「いや」を扱った研究は多くはないが、その中の代表的なものを見ておくことにしたい。

山根 (2003) は、「いいえ」「いえ」「いや」を否定表現と捉え、その中では「いや」が一番意味用法が広いとしている。その上で、「いや」の用法、性質について、次のように述べている。

- 11 「いや」の用法は、1) 前出の語や発話に対して否定の意を表す「単純否定」、(2) 相手への配慮から、感謝・謝罪表現やほめ言葉に対して否定する「気遣い否定」、(3) 文脈から否定のニュアンスが類推される「シグナル否定」の3種に大別することができる。そしてそれらに共通しているのが、なるべく単刀直入に否定表現を使うのを避けようとする、話し手から聞き手への思いやりである。(pp.122-121)

ここで言われている「シグナル否定」というのは、次のような用法である。

- 12 M: そいで、どういうコースがお望みですか
すかな あの 半日岡山観光は
N: いや なんでもいいですよ⁵

Nの「いや」は、「望み」がないことを示すが、「否定とまではいかないが、否定のシグナルを聞き手に送り」、聞き手の推測を求めるものであるとされている。このように、山根 (2003) には、「いや」について興味深い用例が示されているが、分析に用いられた「シグナル」「ぼかし」などの概念はあいまいであり、また、用法全体に一貫した性質の検討は十分ではないように思われる。

その点から見ると、富樫 (2006) は、分析に用いる概念を絞り、「いや」「いえ」「いいえ」を統一的な観点から捉えようとしている。「『いや』の本質的機能」は、次のように記述されている。

13. 『いや』の本質的機能

提示された情報の整合性計算の結果、情報そのもの、あるいは情報提示行為に対して不整合となったことの表示。(p.39)

これに対して「いいえ」は、「提示された情報そのものの整合性計算の結果、不整合となったこと」を示すものとされ、「いや」のように、「提示情報」、「情報提示という行為」についての整合性の判断という、2つの機能を持つことはないとされている。富樫では否定ということばは使われていない。不整合ということばで、提示されたもの(情報、行為)と、文脈・知識・談話ルールなどとの間の齟齬の存在が捉えられている。

このような観察の根拠は、次のような用例である。なお、用例中の「??」は富樫のものである。

14 (異端審問の場面)

A : 太陽は地球の周りを回っています。

B : いや／いえ／いいえ、地球が太陽の周りを回っているのです。

15 (重要な打ち合わせの最中に突然Aが)

A : お昼は何食べようか。

B : いや／??いえ／??いいえ、今は関係ないでしょ、その話は。

14と15での「いや」「いえ」「いいえ」には、許容度の違いがある。その違いは何に拠るかという、「提示された情報」の不整合性があったとするか、「情報提示行為」に不整合があったとするかの判断の違いによるという捉え方である。

14は「提示された情報」そのものに対する不整合判断、15は、「お昼は何を食べようか」というような発話行為をすることについての不整合性判断、とされる。

情報提示が焦点になっているか、情報提示行為が焦点になっているのかによって「いや」「いえ」「いいえ」が選択されるという観察は、場合によっては妥当することもあると思われるが、たとえば「いや、お久しぶり」などというのは、必ずしも相手からの情報提示を前提とした発話ではない。また、不整合という概念も、すべての場合に有効かどうか疑問を感じる。たとえば、例2などの場合、どのような不整合が存在するのだろうか。また、不整合を表示するのはなぜなのか。そのような否定的な判断を直接相手に向けることは、待遇上好ましくないことでもあると思われるが、あえてそのようなことをするには、それなりの動機が必要でもあるように思われる。「いや」によって何をしようとしているのかという観点が必要とも思われる。

その点について分析を加えたものが串田(2005)である。串田は、「いや」の働きについて、次のように述べている。

16 a. 相手が投射している「ありうる展開」を何らかの点でブロックする手立てになる。相手の発話を促す働きにはならない。

b. 自分の計画が進行しているときに、「ありうる展開」はその計画からそれていることを示す。

「ありうる展開」というのは、「相手の発話が投射している会話の展開」とされているが、平たく言えば、相手の発話から予想される展開ということであろう。この観察の優れたところは、「いや」が何に対して言われているのかについて、それを追求していくと蜃気楼のように消えてしまうところを、「ありうる展開」というような概念を設定することにより、「いや」の言及先を捉えたところだろう。たしかに、次のような「いや」は、この考えでうまく捉えることができそうである。

17 松本: え: つ。撮ってるんですかやっぱり。

栗本:

中村: そ [ら そうだ

吉田: [いや撮ってるよ。

(串田 2005 より。下線は筆者)

この「いや」は、「松本」の発話から「投射されている」想定であるところの「撮っていない」と思っていたのに」という「展開」をブロックするものと説明されており、この場合は確かにその通りだろうと思う。

しかし、必ずしも「相手の発話が投射している会話の展開」が常に存在するわけではないようにも思われる。たとえば、次のような例である。

18 袴間満緒: 関川さんどうですか。

関川夏央：いや、もう、田村さんのおっしゃるとおりというかね、ほんとにそうですよね、(…)。(NHK 日曜談話室 2006・9・24 放送)

この例で、「関川」の「いや」を、「相手発話の『ありうる展開』をブロックする」と見るのは妥当ではないように思われる。「ありうる展開」そのものが不明確であるし、もし「ありうる展開」があるとしたら、この例では、その「展開」に乗りこそすれ、ブロックするようなものではないと思われるからである。

また、非言語的な文脈での次のような「いや」も、「相手の投射する展開」は前提とされていない用法である。話しことばの用例が収集できなかったので、書きことばでの用例を挙げる。

- 19 a. 「いやあ、おいしそうだなあ」妙に明るい声で、先生がみんなにお皿を配り始めた。こいつは怪しい。」(恩田陸 (2002) 『不安な童話』より)
- b. 私の顔をみると片手をあげてにっこり笑う。「いやあ、よかった。誰もいないから帰ろうと思ってたところなんだ」(江國香織 (1994) 『きらきらひかる』)
- c. 私が目を覚ましたのは、その衝撃でした。いやあ、よく寝ました。気分爽快です。(西原理恵子、勝谷誠彦 (2002) 『鳥頭紀行ジャングル編』)⁶

この3つの例に現れる「いやあ」は、ひとりごとと見ることもできるものである。また、聞き手を意識したものであったとしても、少なくとも相手の発話を受けているわけではなく、ブロックすべき展開が想定されているかどうかは決められない。

なお、このような「いやあ」は別語であると

見る見方もあり得ると思われるが⁷、同形でもあり、否定性が感じられる点で連続的なものとしてここでは扱うことにしたい⁸。

3 本稿の目的

ここで改めて本稿の目的を述べると次のようになる。

- 20 a. 「いや」に感じられる否定性は何に対するものか。
- b. 「いや」は談話でどのような機能を果たしているのか。

以下、次のような手順で考察を進める。次節で、「いや」の用法にどのようなものがあるのかを、概観する。次に、その区分ごとの用法の性質について分析を加え、最後に「いや」の性質をどう捉えるかについてまとめ、上に掲げた問題を考えることにしたい。

4 「いや」の用法

4.1 区分

「いや」は、言語的なもの、非言語的なものを含めて、なんらかの先行する文脈に対する反応として現れるものと考えられる。「いや」で始められる談話は想像しにくいし、「いや」で始められているテキストがあったとしても、そこには暗黙の文脈が存在しているだろうと思われる。そこで、先行文脈がどのようなものかを次の5つの観点から捉えて、区分を行うことにした。

21. 「いや」の用法を区分するための観点

- α. 言語的文脈があるか
- β. 相手発話か
- γ. WH 疑問か
- δ. 一般疑問か
- ε. 自身の応答か

この観点によって得られる区分、は次のように①から④の6区分になる。

22. 「いや」の用法区分

- [-α (言語的文脈がない)・・・④
- [+α (言語文脈がある)
 - +β (相手発話を受ける)
 - +γ (WH 疑問を受ける)・・・①
 - γ (WH 疑問を受けない)
 - +δ (一般疑問を受ける) ②A
 - δ (それ例外)・・・ ②B
 - β (相手発話を受けない)
 - +ε (応答直後に出現)・・・ ③A
 - ε (それ以外)・・・ ③B

以下、この6つの区分について、①から④まで順番に、各区分それぞれの「いや」の性質を検討する。

4.2 「いや」の用法

4.2.1 ① WH疑問を受ける発話の冒頭に現れる「いや」

①の用法は「いいえ」「いえ」ともとても大きく異なるものである。

「いや」が導く内容については、少なくとも2つのタイプのものが認められる。

1 つは、相手の期待の方向へ展開しないことを示すものである。

23 の話者「1」の質問からは、話者「2」に対して「飲まないとコミュニケーションが成立しない社会」への批判が期待されていると想定されるが、話者「2」はそれと異なる方向の見解を述べている。そのような展開の方向を、つまり相手の期待の方向に進まない見解が述べられることを、「いや」が示すことになっている。

24 も同様である。話者「1」の発話からは、

話者「2」が旅行計画について話すことへの期待が感じられるが、その期待に添えないことが「いや」によって示されている。つまり直前の発話とのかかわりより、串田のいう「相手の投射する展開」との関わりのほうが強いと言える。

23 1 : (…) でも、その、飲コミュニケーションとかって言葉、さえ (2 : ああありますねえ) 最近聞きますよねえ。でその飲コミュニケーションじゃないと成立しないコミュニケーション、の社会 (2 : うん) っていうの、どうですか?

2 : いや、でも、やっぱり、飲んだ時にしかいっ、恥ずかしくて、(1 : あはっ) こう、(1 : あ、あそうですか) 酒の席だから、っていうんで、言える、部分も、あることはあるんですよ。(1 : ああそうですか、なるほど)

(TOM2)

24 1 : (…) あの一、今年の夏はじゃあ、空きますよね、(2 : はい) 就職活動が終わって、(2 : あそうですね、ええ) どんな予定でいらっやいますか?

2 : いやーもうそれが、情けなくて、旅行でもしたかったんですけども、(1 : うん) まお金が、全く、ないんですね、今。それであの一、(…)

(TN f)

もう一つの用法は、23、24 の場合と大いに異なる。先行する発話内容に共感的な姿勢を示すものである。つまり、相手の投射に添うものである。18、25 の例はいずれもその例である。また、この用法の持つ共感姿勢の現れでもあるが、「もう」「ほんとに」というような、共感の程度を高める副詞が共起していることが特徴的であ

る。対象への思い入れの強さを感じさせるものとなっている。

18 袴間：関川さんどうですか。

関川：いや、もう、田村さんのおっしゃるとおりとかね、ほんとにそうですね（…）。（NHK日曜談話室 2006・9・24 放送）（再掲）

25 1：（…）先輩っていても同じクラブじゃなくて上級生の事を先輩と呼んで（2：ええそうなんですよ）いるという（2：ええ）風潮ですけれども、これは新しい風潮なん、だと思わんですが、（2：うん）それ、どう…お思いになります？その背景って、どうしてこうな、なってきた、っていうふうに、お考えでしょうか？

2：いやあの一、わたくしはもうほんとに、驚きで、（1：うん）あの一、聞いたということ一しか（1：うん）ないんですけども、（…）。（KI f）

WH 疑問を先行文脈とする「いや」のこの2つの用法は、一方は期待と異なる方向への展開、もう一つは共感的な内容への展開と、相反する方向への展開を導くように見えるが、後者にも一種の否定的な要素が含まれていて、それはその共感の度合いが期待される以上に高いという点ではないかと思われる。そこに「いや」の現れる意味があるのではないだろうか。

①で挙げた2つの用法は、いずれの場合も、話し手が、相手から投げかけられた話題について関連性の高い内容を持っており、相手の問いに答える前に、自身の持っている内容の方向へ話線を導くときに「いや」が現れるものと思えることができると思われる。

4.2.2 ②A YES/NO 疑問文を受ける発話の冒頭に現れる「いや」

このタイプのものの中には、疑問文の焦点となっている命題に直接答えるタイプのものもある。次の26、27の例はそのタイプのものである。これらは「いえ」「いいえ」に置き換えられる。

26 1：で、あのインターネット上で、あの買い物をなさる時は（2：ええ）う、なんて言うかしらあの一、映画の、あの一、シーンとかなんかちょっと、ちょっと見られるんですか。

2：いや、それはないんです、はい。

（YIm）

27 1：で、日本にいらっやって研究生活、ま、あの一度おでになって何年か勉強なさって帰ってらっやって、なにか、逆カルチャーショックのような、経験はなさいましたか？

2：いや、あの一別にそーゆーような経験、らしい経験はしていま、せん（1：ん）けれども（1：ん）あの一わたしは大学時代からずっとアメリカなもんですから。（CJ f）

この26、27のような用法が一般的かとも思われるのだが、用例を見ると、②Aと分類した用例の大部分は、26、27と違って、直前の質問に対して直接的な答えをしないものである。それに並行して、「いいえ」「いえ」には置き換えにくくなる。

もちろん、直接的に答えないと言っても、無関係な内容が来るわけではなく、関連性は保たれている。28では、時給の金額云々以前の問題としての法律違反の可能性、29では留守電のメッセージ吹き込みをするかどうか以前の問題と

してそもそも留守電が好きでないということ、という具合に、相手の質問内容に修正を求めるものになっている。相手からの質問に直接に答えない事情や理由があり、その説明の開始が「いや」によってマークされている。つまり、「いや」は、直前の質問に対する直接的な応答になる場合もあるが、それが本務というわけではなく、①と共通性を考えると、相手の発話に関連する内容の持ち出しとかかわるものと考えられる。

28 1 : 時給 500 円ていうのは、もうありませんか？

2 : いや、たぶんちょっと労働基準法違反かなんかにたぶん (1 : あっそうですか) なると思います。はい。(MOm)

29 1 : 留守一、電、なん、あの留守番電話に、あのメッセージなどよく。

2 : いや (1 : うん) わたし嫌いなので、たいてい留守番電話だと分かると切ってしまうんですね。(IO f)

ここでの否定性は、直接的な応答をしないというところに見ることができる。そして、「いや」は、そのような直接的な応答を避けたのちにならんかの説明を導くものと考えれば、25、26 のような直接の答えになっている場合にも、なんらかの説明が加わるのではないかという予想を持ったとしても不自然ではない。27 の「けれども (1 : ん) あのーわたしは大学時代からずっとアメリカなもんですから」の部分、その説明部分に当たるのではないかと思われる。

「いや」の機能は、直接的な応答ではなく、文脈にもっとも関連性の高い内容へと導く標識とみることができるように思われる。

4.2.3 ②B 疑問文、質問文以外の発話を受ける「いや」

この区分に属する用法として、HCSJ では、次の a～c の 3 つのタイプの用法が見られた。30～32 にそれぞれ例を挙げる。() 内は、例文番号である。

- a. 相手から礼を言われたときのもの (30)
- b. 申し出や提案に対する不同意を示す (31)
- c. 相手の誤解を修正するときに現れる (32)

これらは発話機能の異なるものではあるが、相手から自分に向けられた発話、あるいは、なんらかの対応を行う必要のある発話という点で共通している。また、いずれも、相手発話のなんらかの部分に否定的な対応がとられるものである。

30 は相手からの謝意の拒否、31 は相手の見解に対する不同意表明、32 は相手の誤解の修正である。

30 1 : あの、今日はお忙しい中をおいで頂きまして、どうも (2 : いやいや) 本当にありがとうございます。

2 : とんでもありません。(1 : はい) どうも、失礼致しました。

1 : 失礼いたしました。(TOm)

31 1 : じ時給が。あー。じゃあ何曜日と何曜日なら、いいんです、しょ？

2 : えー、やっぱり、週末は、あまり、働きたくないんで。

1 : 若い人はそれが多いですよねえ。

2 : いやー、やっぱり、週末は、自分の時間過ごしたいんで、(1 : うーん) ちょっと。(KO f)

32 1 : じゃあお休みは、夏休みは？

2 : ええ、あの一、日本人ですから (1 : うん) お盆は一週間、休ませていただきます。

1 : あ、ただそれだけですか？一週間だけ。(中略)

2 : あ、いえいえ、楽しいですよ。

1 : いやあの、日本人がよく働きすぎと
いうのは(2 : ええ) 言われてるんで
すけれども、(2 : ええ) (…) 働きすぎ、
(2 : ええ) 働き振り、また、遊
び方、に関して、どういう風に、(2 :
そう一ですね) 考えていらっしゃいま
すか? (IT f)

いずれの場合も、相手の談話の方向は、自分
の望む方向ではない。そのような場合、相手の
話を中断させ、**自身の設定した方向へ導こうと
する操作が行われる**。「いや」は、そのような操
作(相手の話の中断、自身の話線への誘導)を
行おうとする際に、まず相手の話の方向を遮る
働きをするものと考えられる。

4.2.4 ③A 相手への応答のあとに現れる「いや」

この区分は、相手の発話に対して、いったん
「そうですか」「そうですね」などと応答したあ
とに、「いや」と続くものである。

前節までの検討に従えば、「いや」は、相手談
話の方向、内容の中断、拒否をする機能を持つ
ものではあるが、いつでもそのような中断、拒
否が可能であるわけではない。社会的に適切な
範囲で行われる必要がある。そのため、相手の
話をとりあえず最後まで聞き、その内容を受け
止めた上で、自分の望む方向へ誘導を図るとい
う場合もありうるだろう。そのようなとき、そ
の結果として、33、34の例に見られるように、
「そうですか。いや、…」というようなパタン
が生ずることになるのだと思われる。

33、34の例は、いずれも、自分の発言の意図
や事情の説明になっている。33では、2Eの「い
や一」は、2Aの発話の理由説明であり、34で
も、注釈的な発言が「いや」で導かれていて、

1Cは1Aの発言の理由説明となっている。

33 2A : そうですか。で、この通勤手当が無
いって事は要は交通費がでないって
いう。

1B : そういうことですね。

2C : うーん、で、先ほどから、先ほども
言いましたけれども、ちょっと家が
離れているものですから、(…)

1D : ですからなるべく、お近い方お願い
してるんですね。

2E : あー、そうですか。 (1 : うーん。)
いや一、最初聞いた時はそういう話
は特に伺ってなかったものですから、
(1 : ええ。ええ。) (KNm)

34 1A : そうですか。(2 : ええ) いつ頃か
ら就職活動始められたん?

2B : あ、5月の17日に帰国しまして、
週末はさんで、三日後から、始めて、
まあ二十、うーんそうですね一カ月の
間に決まりました。

1C : そうですか。 (2 : はい) いやわた
くしの、知ってる、女子大生達はまだ
(1 : ええ) かなり、4月一 (2 : あ
あ一) 3月頃から始めて、(2 : ええ)
まだ、決まってないっていう (2 : あ
そうですか) 学生が多いんですが。

(TN f)

ここでも、相手談話で作られた談話の方向を
停止し、自身の設定する方向へ談話を誘導する
ための手続きとして「いや」が用いられている
と考えられる。

4.2.5 ③B 自発話の中に現れる「いや」

この区分の用例は少なく、言い直しの際に現
れるもののみであった。自身の発言の誤りを否

定するというところに「いや」の否定性が見られるものである。1例を挙げるに止める。

35 2：え、そうですか。じゃあ（1：皆勤賞は出ますから）え、いくらぐらい。

1：そうですね、1ヶ月あのちゃんとあの来ていただけたら（2：ええ）あの3000円。

2：それは、やす、いや、自分の決めた曜日は休み無しで（1：はい、休み無しで、遅刻無しで）てことで3000円、てことですか。

1：うん。（YIm）

4.2.6 ⑥ 言語的な先行発話を持たないもの

この区分については、話しことばコーパス類の実例はない。2節に挙げた例文は、書きことばのものだった。したがって、その例を考察の対象とすることは、4節のここまでの用例と異質なものを混在させることになり、また、あくまで個々の書き手の想定する話しことばであるという制限つきのものになるが、そのことを確認した上で、用例の検討を試みておこうと思う。先に挙げた例19を再掲する。

19 a. 「いやあ、おいしそうだなあ」妙に明るい声で、先生がみんなにお皿を配り始めた。こいつは怪しい。」

（恩田陸（2002）『不安な童話』）

b. 私の顔をみると片手をあげてにっこり笑う。「いやあ、よかった。誰もいないから帰ろうと思ってたところなんだ」

（江國香織（1994）『きらきらひかる』）

c. 私が目を覚ましたのは、その衝撃でした。いやあ、よく寝ました。気分爽快です。（西原理恵子、勝谷誠彦（2002）『鳥頭紀行・どこへ行っても三歩で忘れる・ジャングル編』）

これらの例を見ると、「いや」の出現には、次のような条件があるように思われる。

36. 非言語的な文脈での「いや」の出現条件

- a. ある事態が話し手の前に出現している。
- b. その事態について、先行する認識が存在する。
- c. その事態の出現について、思い入れ、感覚的な評価を示す。

ここでの「いや」は、区分の名称が示すように、非言語的な文脈に現れるもので、発話時点にある事態が出現し、それへ話し手が反応するときに現れるものである。そして、その事態の出現については、事前になんらかの認識が先行している。たとえば、19aでは、どんな食べ物が提供されるかという不安、19bならば、帰ろうかどうかというような迷いが先行していたかもしれない。その内容は正確にはわからないが、少なくとも先行する認識が存在していることはまちがいない。それが、36a～cの観察である。

「いや」の出現にとって大事な点は、その事態についての話し手自身の思い入れ、評価を導くという点だろうと思われる。

5 まとめ

5.1 まとめ

ここまでの検討をまとめると、3節で挙げた本稿の目的に関しては、次のようなことが言える。

1) 談話での「いや」の機能

「いや」は、話し手が、談話の方向を自身の想定する方向へ誘導するためのマーカーとして、談話レベルで機能するものである。

相手からの質問などへの否定応答をその中心的な機能とするものではない。応答に止まるだ

けの受身的なものではなく、談話操作という能動的な性格を持つものである。

この性格のゆえに、「いや」だけでは完結しないということになるのだろうと思われる。同時に、この性格のために、どのような内容が続くかは予想できない面も持つわけで、質問への直接的な否定が現れる場合もありうることになる。

この性格のゆえに、WH 疑問文にも現れるのだろうと思われる。

2) 「いや」の否定性

また、話し手が、自身の想定する方向へ談話を誘導するためには、先行する談話の流れをいったん停止させる必要がある。このためのマーカーとして「いや」は使われるわけであるが、ここに「いや」の否定性の由来があると思われる。

5.2 残された問題

本稿では「いや」を中心に扱ったが、「いえ」「いいえ」に関しても同様の検討が必要である。また、応答という観点だけではなく、談話の操作という観点からの検討も必要になるであろうし、応答詞という区分に括られている語についても、この観点から見直しが必要とも思われる。

また、日本語学習者の発話に現れる「いや」「いえ」「いいえ」の出現状況を KY コーパスで調べてみると、「いや」の出現数は「いえ」「いいえ」2語の3倍ほどになり、日本語の教科書での学習が行われていないにもかかわらず多く使用されているように見える。なぜこのような現象が起きるのか、「いや」の性格を知るための手掛かりになるかもしれない。今後の課題としたい。

*参考文献

- 小早川麻衣子 (2006) 「初級日本語教科書に現れた応答詞——「いいえ」系応答詞にみる問題点」『日本語教育』130: 110-119
- 富樫純一 (2006) 「否定応答表現『いえ』『いいえ』『いや』」(矢澤真人・橋本修 (編)『現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』: 23-46) ひつじ書房。
- 串田秀也 (2005) 『『いや』のコミュニケーション学 — 会話分析の立場から』『言語』34・11: 44-51, 大修館書店
- 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』: 257-279, くろしお出版
- 森山卓郎 (1993) 「否定の応答付加表現をめぐって」『日本語教育』81: 166-177
- 森山卓郎・張敬茹 (2002) 「動作発動の感動詞『さあ』『それ』をめぐって— 日中対照的観点も含めて—」『日本語文法』2-2: 128-143
- 山根智恵 (2003) 「談話における『いや』の用法」『岡大 国文論稿』31: 136-145, 岡山大学文学部言語国語国文学会

注

- 1 日本語教育では、小早川 (2006) の調査によれば、日本語の初級教科書での否定応答は「いいえ」系が8割弱と大部分を占めているようである。が、小早川は、自然会話では「いいえ」の出現数は少なく、現れるにしても儀礼的な応答が主であると指摘している。
- 2 (RTm)は、『インタビュー形式による日本語会話データベース』(北九州市立大学上村研究室)の中の話者を示す。以下同様。
- 3 (…)は省略部分があることを示す。以下同じ。
- 4 特に出典を示さないものは作例である。以下同じ。
- 5 原文のママに表記した。
- 6 この2つの例文は、国立国語研究所「KOTONOHA」による。
- 7 『日本国語大辞典』では別項になっている。
- 8 森田 (1984) では用法が広がった連続的なものとして扱われている。

*この研究は、文科省科学研究補助金基盤研究 (C) (課題番号 22520520) を受けて行われた。